四季祭彩 あさぎりの催し

あさぎり町は、「あさぎり発、幸福行き。来るたび幸福あさぎり町」をテーマに、まち全体が幸福に満ち溢れた町として観光振興を行っています。町内で行われている催しについても、地域の方が主体となって開催することで、地域を元気づける取り組みとして盛り上がりをみせています。

ウォーターパーク

バザー・マルシェ

ウインターライトフェスティバル
（ポッポー館・あさぎり駅周辺/11月下旬～1月中旬）
あさぎり町商工コミュニティセンター「ポッポー館」と駅前中央広場でイルミネーションが楽しめます。色とりどりの明かりが灯り、幻想的な雰囲気に包まれます。

天子の水公園花菖蒲まつり（6月第1日曜日/天子の水公園）
会場である天子の水公園は、熊本名水百選にもなっている湧水公園。5月下旬から6月上旬にかけて、3万本の菖蒲が見頃を迎えます。祭りでは様々なステージイベントが行われ、多くの見物客で賑わいます。

球磨川マラソン大会（須恵文化ホール）
球磨川の川風にふかれて自然の中を走るマラソン大会。3・5・10kmとハーフコースがあり、毎年県内外から多くのランナーが健脚を競います。

谷水薬師大祭
年4回の大祭では一寸八分の御本尊が開帳されます。紙を噛んで作った紙つぶてを仁王に投げ、病むところにくっつくと病が治るという言い伝えから健康を願う人たちが早朝から夕暮れまで訪れます。

町内一周駅伝大会
各地区の代表11名が町内を駆け抜ける駅伝大会です。免田総合グラウンドをスタート・ゴールとする約16㎞のコースです。

成人式（1月）
華やかな振り袖や真新しいスーツに身を包んだ新成人が須恵文化ホールに集まり、家族や来賓が見守る中、式典が行われます。

町民体育祭（あさぎり町5会場/10月）
あさぎり町体育協会各支部町民体育祭校区ごとに分かれ、町内5会場で町民体育祭が開催されます。健康に留意しながら地域住民の親睦をはかることが大切です。

モグラ打ち（各地区/1月）
もぐら打ちは、地面を叩き土の中にいるモグラや害虫を追い払うことで、五穀豊穣や無病息災を祈願する伝統行事です。子ども達は、個人の家をまわりながらお礼にお菓子のご褒美を頂きます。

あさぎり町の日本 遺産・指定文化財

日本遺産の認定を 受けた貴重な文化財

あさぎり町の 古の風に出逢うまち 日本遺産

人吉球磨地域は、鎌倉時代から明治維新までの約700年間で相良氏が土着し領土を広げ治めた全国でもめずらしい地域です。

相良氏はウンスンカルタや球磨焼酎など民衆の文化を尊重しつつ、寺社に都の建築様式を用いるなど新たな技術も取り入れ、国宝青井阿蘇神社など歴史的・文化的価値が高い社寺や仏像が信仰の対象として大切に受け継がれてきました。

この「相良700年」に受け継がれた文化財や風習、地域の歴史を結びつけて紡がれた物語が、日本の文化・伝統の魅力を伝えるものとして「日本遺産」に認定されました。

庄屋臼太鼓踊り（球磨の臼太鼓踊り）（県無形民俗）

球磨に伝わる伝統芸能の太鼓踊りの一つで、町では唯一、県無形民俗文化財の指定を受けている。源平合戦の様子を踊りに表現するといい、頭、脇、関、仮鬼、鉦打ちの役がある。兜には水牛、鹿、鍬形の角があり、仮鬼は道化役で見物者に笑いを誘う。町の祭り、祝賀行事、雨乞いなどに踊られる。

球磨神楽（国無形民俗）

球磨地方の神社の秋の例大祭前夜に奉納される神楽で、あさぎり町では須恵諏訪神社、岡原霧島神社、深田阿蘇神社、上（村）白髪神社、岡留熊野座神社、築地熊野神社、皆越白髪神社の７神社で奉納。三番神楽、棟方、笛揃、大幣など17番を伝承し、採物舞（とりものまい）という古風なもので、神懸かりの要素を強く持った神楽。平成 25 年に国重要無形民俗文化財の指定を受けた。

木造毘沙門天立像・木造二天王立像（国重文）

勝福寺跡関連文化財

荒茂毘沙門堂の本尊木造毘沙門天立像は、康正二年（1456)相良氏第11代長続の代官藤原義信によって修理されたもの。長続は永留相良流の当主。第10代頼堯の本家相続の時、頼堯が人吉帰城の途中に不慮の死を遂げたために、長続は相良本家第11代を継いだ。長続によって相良氏が戦国大名としての力をもったことで知られている。

勝福寺は平安時代末期、須恵氏が創建し、室町時代に真言宗人吉願成寺の末寺となり相良氏の寺社体制の中に組み入れられた。

勝福寺古塔碑群は、たくさんの古塔碑が立ち並ぶ。中央に阿弥陀堂を配し、古塔碑がコの字に取り囲む。鎌倉時代の弘安四年(1281年）の五輪塔は球磨郡で最も古い年号をもつ。

荒茂毘沙門堂や仏像、勝福寺古塔碑群、白山神社、亮憙法印逆修墓、岳の堂遺跡が勝福寺跡関連文化財である。（本家＝下相良氏　長続＝ながつぐ　頼堯＝よりたか）

荒茂毘沙門堂（仁王門）（町有形）

木造毘沙門天立像外四立像（県重文）

勝福寺古塔碑群（県史跡）

日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語る「ストーリー」を認定するというもので、文化庁が平成27年度から創設した制度です。

文化財そのものが認定の対象となるわけではなく、ストーリーを語る上で不可欠な有形・無形の文化財群を地域主体で整備・活用し、国内外に発信することで、観光振興や地域の活性化を図ることが目的となっています。

山上八幡神社本殿（町有形）

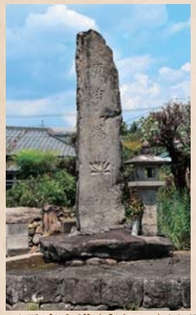
本殿は一間社流造で茅葺き屋根。元は皆越の小城にあった。戦国時代、上村氏滅亡後、東円寺の僧勢鍑が死後怨霊となり恨みがある皆越家に崇り、その霊を鎮めるため皆越氏が建立。天正5年（1577)、悲運の名将といわれる相良家第18代相良義陽公の夢想により久木原に遷座建立したという。義陽が若年で家督を継いだ時にお家騒動が起こり、結果として上村相良流が滅亡するに至った。平成3年に大型台風で大破し、球磨工業高校建築科伝統建築専攻科の協力により平成22年度「名勝狩所」の地に修理移築した。

須恵阿蘇釈迦堂（県重文）

平安時代末期、在地豪族須恵氏が阿蘇山平等寺を創建し郡内最初の真言宗寺院であった。相良家が戦国大名になると相良家代々が保護した。釈迦堂は金堂として現在地に建てられ、かつての本堂の木材を使用している。太い丸柱の大きさから当時の平等寺本堂の大きさを彷彿させる。堂内には、平安末期から鎌倉時代建立の木造釈迦三尊像、平安時代末期の木造二天王立像、江戸時代後期の木造薬師如来坐像と十二神将像がある。

庚申信仰と庚申塔

庚申信仰は戦国期以降に流行し、その信仰で造塔されるのが庚申塔。中国の道教の思想には、人の体内に三尸という虫がいて、庚申の日の夜、人が眠っている間に体内から抜け出して天に昇り天帝にその人の悪行を告げ口するという。悪行の度合いにより寿命が縮むといわれ、信仰者は長寿のため、庚申の夜は虫が抜け出ないように徹夜をした。



二子庚申塔（高さ3m）（未指定）

石坂庚申塔（未指定）

川瀬庚申塔（町有形民俗）

平等寺庚申塔（県有形民俗）

球磨川

相良氏は、水量が豊富な球磨川を交通および米や木材等の物資の輸送に広く活用した。水運の伝統は現在の「球磨川下り」に受け継がれている。

百太郎溝・幸野溝

人吉藩領内の米生産を支えた長大な灌漑用水。藩や地域住民により長い年月をかけ開削事業が行われ難工事の末に完成。現在も貴重な農業用水として使用されている。

球磨拳

じゃんけんのルーツとも言われる拳遊び。宴会の余興として、勝負に負けた方が焼酎を飲む。焼酎好きはわざと負ける者もいたらしい。

球磨焼酎

16世紀前半頃、球磨や薩摩で焼酎造りが始まったといい、およそ500年の歴史がある。江戸時代、相良氏は人吉球磨地域において貴重だった米を主原料にした醸造を認めた。現在、球磨焼酎はWTO（世界貿易機関）によって国際的なブランドとなっている。あさぎり町では酒造各社がそれぞれ味わいある焼酎造りに取り組んでいる。

（資）髙田酒造場

（資）松本酒造場

（株）堤酒造

（株）宮原酒造場

松の泉酒造（資）

相良三十三観音

江戸時代初期、人吉藩家老の井口氏が藩内に三十三観音を選定しご詠歌も作った。以後、各札所は地域住民の精神的な拠り所として信仰を集め、現在では相良三十三観音巡りが春秋のお彼岸に行われ、巡る人達と接待する人達の温かい交流が続いている。

宮原観音堂・厨子共（二十九番札所）（県重文）

観音堂は、３間ともに両開きの桟唐戸がつく。外陣は化粧屋根裏で、内陣だけに天井が張られている。内陣の奥には仏壇が設けられ、入母屋屋根で彩色された厨子が納められ、中に木造の聖観音菩薩坐像を安置。

植深田観音堂（二十番札所）（町有形民俗）

もと慈眼庵という僧坊と伝え、本尊は木造聖観音菩薩立像。平成９年の壁修繕の折、明治22年の壁画がみつかり、その壁画の構図から当時本尊は坐像の聖観音菩薩であったとみられる。

内山観音堂（十九番札所）（町有形民俗）

観音堂は久寿元年（1154）平川師高が建立した有智山寺（萬福寺）の本堂があった所。本尊の千手観音菩薩は火災にあい焼けこげて堂内に残り、平成８年古町の深水一雄氏が今の千手観音座像を寄進。

秋時観音堂（三十番札所）（町有形民俗）

十一面観音菩薩立像は、もと永里城の菩提寺修法寺（珠宝寺）の本尊であったもの。像高156.5cm、桧材一木造りで眼は彫眼。台座裏に墨書銘がある。観音像の脇に木造毘沙門天立像と天部形立像の2体も安置。いずれも室町時代の作という。

覚井観音堂（二十二番札所）（町有形民俗）

本尊は木造十一面菩薩観音坐像で、像高70ｃｍ、桧の一木造、彫眼で大正３年（1914）に彩色。観音堂は昔、県道近くにあったが県道拡張工事のため昭和52年現在地に移設。

上手観音堂（二十二番札所）（町有形民俗）

巨岩に立つことから、別名岩立観音と呼ばれる。本像は、像高43ｃｍ、桧の一木造、玉眼、江戸時代の彫作。文化４年（1807）の修理銘を光背部に発見。

永峰観音堂（二十一番札所）（町有形民俗）

江戸時代の絵図によると、以前は買多田という場所にあり、明治初期と昭和47年（1972）に２回移転している。本尊は如意輪観音立像で相良三十三観音札所中、如意輪観音菩薩なのはここだけ。

あさぎり町の 指定文化財

日本遺産認定を受けていない貴重な文化財

あさぎり町には、有形・無形の伝統文化が数多くあります。これらは、すべて長い歴史を通して祖先から継承された遺産であり、町の歴史や文化を理解するために貴重な財産となっています。近年の地域の過疎化や少子高齢化によってそれらの文化財の継承が困難になりつつあります。

児童生徒にも学校教育や地域教育を通して、対策を講じていきます。その主要施策として、「伝統文化の保護と、継承、文化財の保護と活用」を進めていきます。

免田才園古墳出土品（国重文）
（熊本市立博物館預託展示）

免田永才の才園には、四つの古墳があったといい、今では二基の古墳が残る。昭和１３年２月、公会堂建設工事の折、二号墳の石室を掘り当て、そこから刀剣、玉、馬具類、鏡など数多くの遺物が出土した。そのうちの「鑾金獣帯鏡」は、直径 11.6ｃｍ、白銅鏡の背面全体に分厚く金が鍍金され、今なお金色に輝いている。現在、熊本市博物館で展示中。

才園古墳群（免田西永才）（県史跡）

１号墳は直径 15ｍの円墳。石室が露出するのは２号墳で、石室の構造がよく見て取れる。横穴式石室は小規模。石室内部はベンガラで赤く塗られ、羨道部にもわずかに赤く残る。６世紀末から７世紀頃の築造と推測されている。

鑾金獣帯鏡（国重文）

上村焼窯跡及び灰塚（県史跡）

窯跡は狩所地区の鶴田家裏にある。朝鮮の役凱旋の時、相良氏が朝鮮から連れてきた陶工を近くに住ませわせたという。江戸時代後期、一勝地の右田伝八の甥、税所利助が「つぼ屋」として現在地に窯場を再興し、茶壷、花瓶やすり鉢を作る。明治10年西南戦争の兵火に遭い、その後廃絶した。江戸時代の生産遺跡として貴重。

鬼の釜古墳（県史跡）

免田吉井地区にあり、直径11ｍ、高さ約4.5mの円墳。自然石と切石を組み合わせて本格的な横穴式石室を構築。羨門は巨大な石を刳り貫いたもの。６世紀末から７世紀頃に築造と推測されている。

谷水薬師堂（町有形）

日本七薬師の一つといわれている。記録では、上村氏の菩提寺として室町時代の応永年間に伽藍が作られたという。弘治3年（1557）、謀叛を起こした上村氏を攻撃した時、兵火に遭い焼失。その後再興されたが、明治30年（1897年）、薬師堂は火災で全焼し、明治32年12月に改築竣工。焼けた薬師仏から高さ6cmほどの純金の胎内仏が発見された。

須恵諏訪神社本殿及び宮殿（県重文）

本殿は、桁行3.60ｍ、梁間2.35ｍ、板葺で元は二間社流造。天文21年（1552）頃に建立と考えられている。覆屋で本殿を覆うのが特徴。本殿の中には木造の宮殿があり、正面２間（間口54ｃｍ）側面１間（奥行28ｃｍ）、棟高64ｃｍで、寄棟造、板葺、棟の左右に鳳凰があり、唐様建築に多い手法を残している。

築串六地蔵（町有形）

室町時代、文正2年（1467）の六地蔵信仰の遺物。龕部の六面には錫杖持った地蔵菩薩立像が陰刻され、多くの法名と紀年銘は「文正二年丁井（亥）八月彼岸」と刻まれている。

丸池 リュウキンカ（町天然）

リュウキンカ（キンポウゲ科）はあさぎり町の町花。昭和16年以降に人吉市の植物学者前原勘次郎が発見。昭和46年頃、旧免田町の丸池が自生の南限とされる。

エンブリー資料

昭和10年にアメリカから来日した社会人類学者。エラ夫人とともに旧須恵村で1年間にわたり農村社会を研究。1600枚に及ぶ写真の複写を町が所蔵している。

免田式土器

「免田式土器」と呼ばれる免田の地名が付けられた弥生時代後期の壷形土器。弥生時代後期から古墳時代初頭に作られた。弥生時代の土器の中では、最も優美な形といわれる。

国重文=国指定重要文化財　国無形民俗=国指定重要無形民俗文化財
県重文=県指定重要文化財　県史跡=県指定史跡　県無形民俗=県指定無形民俗文化財
町有形=町指定有形文化財　町有形民俗=町指定有形民俗文化財
町天然=町指定天然記念物